



## 【TOPICS】

- 2011 実践教育研究発表会 千葉大会開催報告特集
- ・2011 実践教育研究発表会 千葉大会開催報告・・・2
- ・電気・電子・情報系企画報告・・・3
- ・建築・デザイン系企画報告・・・4
- ・企業展示実施報告・・・7

## 2011 実践教育研究発表会 千葉大会 発表会に寄せて

千葉職業能力開発短期大学校校長  
大会会長 平塚 剛一

平成 23 年度の実践研究発表会が当校を会場として開催されました。御参加いただいた会員の皆様をはじめ関係各位の方々に御礼申し上げます。開催校としてのおもてなしが十分でなかったかもしれませんが皆様のご協力によって成功裏に終了することができました。顧みれば、東京短大校（現職業大東京校）で第一回発表会が行われてから今回で 24 回目になります。この間、私も会員の一人としてジャーナル誌の発行や分科会の活動に汗を流してきた思い出がよみがえります。そうした経験がその後において大変役立ったと今でも感謝しています。ものづくりの素晴らしさと楽しさを伝えるべく、もっともっと多くの人に参加してもらいたいと念じています。教育や訓練に携わる者の発表の場として仲間の輪を広げ、会を継続して行って欲しいものです。



ところで、10月1日をもって雇用・能力開発機構の業務は職業能力開発分野に限って新法人に移管されました。これまで以上にコンプライアンスに基づいた目標達成が求められることとなります。また、新法人では大学校等を除く施設名や本部の部署名に職業訓練という名称が使われることになりました。新しい名称に馴染むには少し時間がかかりそうです。一方、大学校等では業績もさることながら「教育と職業訓練の違い」についても問われています。企業内訓練が減少する中、公共の職業能力開発大学校等がその役割を担ってきたともいえます。しかし、企業が期待するのは技術、技能もさることながら、それ以上にあいさつをはじめとする 5s が身に付いているかどうかではないかと思えます。成田校の航空機整備科の学生は、廊下ですれ違った際はもちろん授業が始まる際や教員室に入る際にも元気なあいさつを欠かしません。他科の学生もそれにならってあいさつを交わしています。非常に気持ち良く感じます。身支度を整え、礼にはじまり礼で終わることを習慣づけることが訓練の持ち味といえるのではないのでしょうか。職業訓練の持ち味をカッコ良く出していきたいものです。

来年度の実践教育研究発表会が盛況でありますようご祈念いたします。

## 2011 実践教育研究発表会 千葉大会 大会開催報告

2011 年度の実践教育研究発表会が 9 月 29 日から 10 月 1 日までの日程で、千葉県千葉市の千葉職業能力開発短期大学校（以下千葉能開短大という）で厚生労働省、雇用・能力開発機構、千葉県、千葉市、千葉労働局、千葉職業能力開発協会、千葉県金型工業会、チバテレの後援で開催されました。今大会は「夢の架け橋 ものづくり・ひとづくり」を大会テーマに掲げ、大会運営委員会および実行委員会によりいろいろな企画が準備されました。今回は、千葉能開短大で計画されたキャリア教育展「キャリア教育エキシビション」も同時に開催され、3 日間の会期中、延べ 740 名余りの参加者により発表や交流が行われました。

3 系共通企画である特別講演では、「企業における人材確保と育成」というテーマで株式会社タムラコントウ代表取締役会長の田村行雄氏の講演が行われました。

各系の独自企画もそれぞれ行われました。機械系・能力開発分科会共同企画では「企業経営者が職業能力開発短大・大学校に期待するもの」というテーマで 4 名のパネラーを迎えてシンポジウムが行われました。機械系企画 I では「若い実践技術者にいかに安全の責任を教えるか」というテーマで 3 名の企業の方々による講演が行われました。

電気・電子・情報系の企画、組込みシステム分科会セッションでは「組込みシステム業界の流れと、教育現場における取組」というテーマで、セッション並びに設計アナリストの鳥海佳孝氏による「FPGA 導入活用事例（業界の流れと教育現場における取組）」というテーマで講演が行われました。

建築・デザイン系の企画 I では JSCA 千葉代表・(有)SPC 設計代表 園部 隆夫氏による「企業が職業訓練に何を期待しているか」を演題に特別講演、4 名のパネラーによる「修了生と職業教育を語り合う」という演題でパネルディスカッション、並びにシンポジウムが行われました。

一般講演は 78 件（機械系 30 件、電気・電子・情報系 25 件、建築・デザイン系 15 件、能力開発分科会 8 件）、ポスターセッションは 4 件の発表がありました。

企業展示には全国から 25 社の出展があり、教育・訓練の教材や関連製品などの展示が行われ、各企業のブースには多くの方が参集していました。

## 電気・電子・情報系企画報告 実装技術研究分科会セッション報告 「組込みシステム業界の流れと、教育現場における取り組み」

東京都の職業訓練校の講師を務める設計アナリストの鳥海佳孝氏により、業界における FPGA の普及活動や職業訓練校における FPGA を用いた教育内容、ソフトウェアとハードウェアで実現するときのそれぞれの違いについて講演していただいた。



写真1 講演の様子



写真2 自主開発 CPLD ボード

### 講演内容

1. FPGA 導入活用事例（業界の流れと教育現場における取り組み）
  - (1) 最新 FPGA 動向
    - FPGA の基本
    - Altera FPGA と Xilinx FPGA
    - リアルタイムデバッグ (Signal Tap II, Chipscope)
    - CPU の内蔵 (NIOS II, MicroBlaze, ARM)
  - (2) 教育現場への FPGA 設計導入
    - 都立中央・城北職業能力開発センター板橋校の事例
    - 埼玉県立新座総合技術高等学校の事例
    - 与える課題のポイント
2. ソフトウェアのハードウェア化におけるポイント
  - (1) ソフトウェアの肥大化
    - 各業界の例
  - (2) ソフトウェアのハードウェア化
    - LCD コントローラの例
    - ソフトウェアのハードウェア化におけるポイント

講演終了後には鳥海氏から実際に職業訓練校で使用している自主開発 CPLD ボードなどのデモンストレーションを行っていただいた。また、聴講者との活発な意見交換が行われた。

## 建築・デザイン系企画報告

### 建築・デザイン系企画 I

#### 特別講演『一建設業界の職育（職業教育）を考えるー』

##### 【第1部 基調講演】

今回の千葉大会では教育エキシビジョンと銘打って「職業教育」を柱に構成され、職業訓練を通じていかなる人間形成が可能になるのかをテーマに展開されていた。そこで建築・デザイン系部会ではJSCA（日本建築構造技術者協会）千葉代表であり、東京理科大学にて教鞭をとられている有限会社 SPC 設計代表の園部隆夫氏に『建設業界の職育を考える』と題して講演していただいた。大学教育だけでなくインターンシップを受け入れるなど実務教育にも精通しており、それらの経験から次世代を担う建築を学ぶ学生にとって必要な人材教育についてや若い建築技術者が確実に技術スキルを向上させることのできる教育システムはいかなるものなのかを分かりやすくお話しいただいた。講演の概要については、はじめに建築を学ぶ学生にとって大切なことを指導する術を解説頂いた。その中で特に強調されていた点は、学生に求められている説明能力・コミュニケーション能力・アイデアを生み出す創造性など養うことのできる教育が大切だということだった。さらに倫理観をもった人材育成についても話しされた。企業内のコンプライアンス、技術者個人としての責任とその人格形成が立派な技術者を育て上げるとお話しされた。また、学校での職業教育の役割は前述の指導に加えて卒業生を対象とした集合教育を行うことであるとも付け加えられていた。実践教育において間違った方向に向かうことの警鐘を鳴らすと同時に職業教育の未来について期待されていることも確認することができた。詳細についてはジャーナルに特集として掲載予定である。



ご講演する園部隆夫先生



学生を含む聴講の方々に盛況であった

【第二部 修了生によるパネルディスカッション】

園部隆夫先生の基調講演に引き続き、千葉職業能力開発短期大学校（以下千葉短大）住居環境科の修了生によるパネルディスカッションが行われた。園部先生にもご参加いただいた。パネラーは大工である父親の下修業を続け、2級建築士、1級建築大工技能士の資格を取得し全国のプロの建築大工による青年大工技能競技会の全国大会にも出場し、現在では若手の大工を育成するため千葉土建技術研修センターにて講師として後進の指導にあつたっている中島宏和氏、株式会社ティーエスケーにおいて1級建築施工管理技士として現場管理の責任者として活躍している石井圭太氏、JSCA 千葉初代会長である飯島宏治先生の下、建築構造技術者として活躍中の古川優子氏の4名によって議論を交わした。論点としては千葉短大で学んだものを実務として生かし、現在の仕事に役立てていることや今後職業能力開発校に期待すること、学生へのアドバイスとして職業人としての心構えを其々の立場からお話しいただいた。共通してお話しされていたことは大いに学校や先生を利用し自分のスキルアップに活用すること、世の中で大切なことは周囲とのコミュニケーション能力を高めること、厳しい環境に身を置いてもそのギャップを乗り越えることができれば必ずと道が開けるということを語っていた。この議論の中で感じとることのできた実践教育の本質は自らが進んで積極的に業務に関わることが重要で、自分で考え自分で解決するような機会を与える教育が大事であると再認識した。



中島宏和氏

石井圭太氏

古川優子氏

園部隆夫先生

【第三部 「みんなで職業教育を語り合おう」】

第三部としてパネラーだけではなく会場に来られている先生方や学生等全員参加の企画が行われた。園部先生はじめ修了生に対して質問を通じて相互に語り合うというものである。中島氏には大工という職人の道からその将来像はどのようなものであったのか、その後講師として後進の指導に当たるまでにどのような気持ちの変化があったのか、職人の世界の年齢構成はどのようにになっているのかなど技能職としての立場の詳細に関心が集まった。石井圭太氏には現場を仕切る施工管理者としての立場や改修工事を専門とし、そこに住む住人とのコミュニケーションの取り方に話題が集中した。園部先生へは企業の立場としてどのように人材育成を行い、一人前の技術者として育て上げるのかをゼネコン採用担当者、教育担当者の視点でお話されていた。最後に印象に残った忘れられない仕事について話し合われたがやはり一番努力をしてその苦勞が実り現実のものとなったということで議論が収束した。



語り合うパネラーたち

(千葉職業能力開発短期大学校 大根津久)

## 建築・デザイン系企画Ⅱ

### 『新たな職業能力開発総合大学校に向けて』

新職業大が、東京都小平市において平成 24 年 4 月に開講する。「ものづくりプロセス技術者」を体系的に育成する総合課程が新設され職業大が再発足することになった。新課程では、生産現場の指導者(生産現場全体を見渡せるマネジメント能力を有する中核的・指導的技術者)になり得る人材、すなわちプロセスイノベーターを育成することを教育目標に掲げている。生産プロセス技術系に機械専攻、電気専攻、電子情報専攻、建築専攻の 4 専攻を設置し、学士も取得予定である。将来は、総合課程の次のステップとしてハイレベル訓練(仮称)も開設予定である。これからの職業能力開発施設のさらなる先導役となることを期待したい。新課程の詳細は、次の URL をご覧ください。



<http://www.uitec.jeed.or.jp/examination/entrance/index.html>

(職業能力開発総合大学校 東京校 和田浩一)

## 建築・デザイン系企画Ⅲ

### 『エクスカーション ホキ美術館』

実践研千葉大会最終日の 10 月 1 日(土) 午後千葉市緑区あすみが丘東 3 丁目 15 番地にあるホキ美術館を訪問する貴重な機会を得た。建物は写真のように昭和の森に面した地上 1 階、地下 2 階の三層の回廊型ギャラリーで写実絵画を展示するために設計されている。当日の訪問では、設計・監理を行った日建設計の所員の方に建物の設計上の特徴について解説をして頂けるという大変恵まれた学習の場であった。特に写実絵画を活かすためのピクチャーレールのない展示室、天井に埋め込まれた LED とハログンの照明などの工夫は大変素晴らしいものであった。勿論、実践研会員はホキ美術館の静物と風景画展の今にも動きだしそうな写実絵画も十分に鑑賞した。大畑稔浩画伯の《剣山ーキレンゲショウマ》に感動して、絵葉書を 2 枚購入してホキ美術館をあとにしたが、参加者それ



ぞれが貴重なお土産を持参してエクスカージョンを終了できた。

(職業能力開発総合大学校 東京校 定成政憲)

## 企業展示報告

2011年9月29日(木)～10月1日(土)の3日間の発表会会期中の2日間で企業展示を実施しました。例年通り会期の初日午後、二日目での実施でした。(9/29(木)13:00～17:00、9/30(金)9:00～16:00)

企業展示募集は、地元企業から1社の出展に留まったのは誤算ではありましたが、賛助会員を中心とする後援企業のご協力により、出展企業数25社・27ブースでの開催となりました。電気新科を意識した出展が増えたのが特徴的でした。

昨年に引き続き、各企業の出展内容説明会(各社3分程度)を開催しました。展示会場が廊下ということで、密集することが難しく通行の妨げにもなることから実施しづらい環境ではありましたが、説明会には見学者が多く集まり展示会場は賑わいを見せ、出展企業からも好評でした。ポスターセッションと絡めた実施が効果的だったと思います。



写真 企業展示の様子

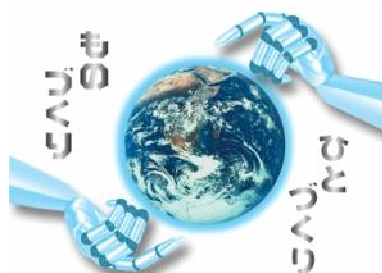
(職業能力開発総合大学校東京校 太田 和良)

## 編集後記

今回は2011年冬号として、今年度開催された2011実践教育研究発表会 千葉大会の報告特集を掲載致しました。今年度の発表会も大盛況に終わることができました。関係の皆様お疲れ様でした。来年度は神奈川県での開催を予定しております。次号は、今回掲載できなかった機械系イベント報告、当協会会長の新年のご挨拶や研究奨励賞受賞者紹介を予定しております。

WEBニュース編集事務局では、皆様からの各地のポリテクビジョンや催し物に関する情報をお待ちしております。記事半ページ程度、写真2枚程度を添付していただき、以下のメールアドレスへ直接、もしくは編集事務局まで封書でお送りください。またこちらからも記事のお願いをするかもしれませんが、そのときにはご協力くださいますようお願いいたします。

例年、この時期になりますと、異動した方もいると思います。勤務先、メールアドレスの変更は、分かり次第、実践教育訓練協会事務局までメールまたは FAX にてお知らせください。



---

発行責任者：大竹 勉  
発行：(社)実践教育訓練研究協会事務局  
〒185-0021 東京都国分寺市南町 2-18-36-203  
TEL 042-300-1651 FAX 042-300-1652  
<http://www.jissen.or.jp/> E-mail: [jissen@jissen.or.jp](mailto:jissen@jissen.or.jp)

---

編集責任者：御田村 真毅  
編集事務局：関東職業能力開発大学校  
〒323-0813 栃木県小山市横倉三竹 612-1  
TEL・FAX 0285-31-1748  
<http://www.jissen.or.jp/> E-mail: [jissen@jissen.or.jp](mailto:jissen@jissen.or.jp)

---

広報委員会 Web Jissen News 編集部門：原圭吾・松葉孝治・御田村真毅  
広報委員会 Home Page 編集部門：水渡博幸・新島泰宏・有田浩之・永野秀浩  
広報委員会 委員長：有田浩之  
発行・編集：(社) 実践教育訓練研究協会 広報委員会  
JISSEN NEWS 2011 秋(No.173)

---